

令和8年2月2日
 県立高校校名検討懇話会
 会長 北川 晃

県立高校校名検討懇話会（以下「懇話会」という。）は、県立高校改革実施計画に基づき、学科改編及び再編・統合等の対象となった高校の名称案について検討するため、平成28年4月に設置された。

懇話会では、このたび、県立高校改革実施計画（Ⅲ期）により、令和9年度に再編・統合により新たに開校する3校の校名候補を選定したので、「県立高校改革実施計画（Ⅲ期）第三次報告書」として神奈川県教育委員会に報告する。

1 対象校について

令和9年度に再編・統合により新たに開校する3校について、校名選定の対象とした。

高校名 [所在地] (課程・学科)	再編・統合後の課程・学科
旭高校 [横浜市旭区下川井町2247番地の1] (学年制全日制 普通科) 横浜旭陵高校 [横浜市旭区上白根町1161番地の7] (単位制全日制 普通科)	学年制全日制 普通科 旭高校の敷地・施設を活用
横浜桜陽高校 [横浜市戸塚区汲沢町973番地] (単位制全日制 普通科) 永谷高校 [横浜市港南区下永谷1丁目28番地1号] (学年制全日制 普通科)	単位制全日制 普通科 横浜桜陽高校の敷地・施設を活用
藤沢清流高校 [藤沢市大鋸1450番地] (単位制全日制 普通科) 深沢高校 [鎌倉市手広6丁目4番1号] (学年制全日制 普通科)	単位制全日制 普通科 藤沢清流高校の敷地・施設を活用

2 校名選定の考え方について

校名選定にあたっては、「県立高校改革における校名選定の考え方」に基づき、協議・検討した。

県立高校改革における校名選定の考え方

1 校名選定の基本的な視点

- (1) 学校の所在地や学校の種類がわかりやすいこと。
- (2) 生徒や学校関係者、地域の方々に親しまれるものであること。
- (3) 生徒がその学校で学ぶことに喜びと誇りを持てること。

2 校名選定の考え方

基本的視点を踏まえ、既存名称の使用も含め、概ね次の考え方により校名を選定することとする。

(1) 学校の所在地の市区町村名を使用する。

- ① 市区町村名を使用することを原則とする。
- ② 既に、市区町村名が使用されている学校が存在する場合は、市区町村名と地名・地域名（字名、所在する地区を表す東西南北などを含む）を使用する。
- ③ 市区町村名、地域名等を使用することで既存の学校と類似する校名になる場合や、生徒が喜びと誇りを持てるような校名として適切な言葉がある場合は、学校の設置趣旨、期待等を表す言葉（ひらがなの使用など表記を工夫することを含む）などを使用する。
- ④ 既存の学校を除き、広域の地域名は、既存校と区別しやすい、あるいは、全県のバランス上など広域名を使用しても他への影響が小さい場合などに限り、使用を検討する。

(2) 学校の種類を表す言葉を付加する。

- ① 普通科は、これまでも学科を表す言葉を付加しないことから、これに合わせて、今後も学科を表す言葉はつけない。（フレキシブルスクールも普通科の単位制であることから、学科名はつけないが、学校の趣旨等を表す言葉やひらがなの使用など表記を工夫する。）
- ② 総合学科は、「総合」を付加することで学科を表す。なお、総合学科から他の学科への改編にあつては、原則として「総合」を削除する。
- ③ 専門学科にあつては、専門教育の特徴を表す言葉で学科を表す。この場合は、同一の学科は同一の言葉を使用する。ただし、複数の学科を併置する場合は、この限りでない。

(3) 上記のほか、次の点に留意する。

- ① 長さ、読みやすさ、語呂、略称（短縮した校名）、響きなどにも留意する。
- ② 既設校等の類似名称は避ける。
- ③ 差別語、揶揄される意味の言葉、地元や生徒等が嫌う語彙は避ける。

3 校名候補の選定

これまで、再編・統合においては、「①地名・町名等に関連するもの」「②両校双方の校名に由来するものやその特徴を表すもの」「③再編・統合後の新校を象徴するもの」「④既存の校名を活用したもの」の4つの視点で、校名候補を選定した。

今回は、再編・統合により新たに開校する高校が対象であることから、これら4つの視点から検討し、選定した。

旭高校・横浜旭陵高校の校名候補

校名候補案	主な選定理由	視点
<p style="text-align: center;">横浜旭 (よこはまあさひ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新校の所在地の市名である「横浜」を冠する。 ○ 新校の所在地の区名である「旭」を使用する。 ○ 「旭」の漢字は、両校の現校名にも使用されている。 ○ 両校関係者からも期待されている名称である。 ○ 地名や場所も含めて、シンプルでわかりやすい。 ○ 新校は普通科であることから、学科を表す言葉は付さない。 	<p style="text-align: center;">① ②</p>
<p style="text-align: center;">横浜旭陽 (よこはまあさひ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新校の所在地の市名である「横浜」を冠する。 ○ 新校の所在地の区名である「旭」を使用する。 ○ 「旭」の漢字は、両校の現校名にも使用されている。 ○ 「陽」を使用することにより、朝日のように明るく照らす未来を想起させる。 ○ 両校の現校名を使用しつつ、新校として発展するイメージを表す。 ○ 新校は普通科であることから、学科を表す言葉は付さない。 	<p style="text-align: center;">① ② ③</p>
<p style="text-align: center;">横浜旭岡 (よこはまあさひがおか)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新校の所在地の市名である「横浜」を冠する。 ○ 新校の所在地の区名である「旭」を使用する。 ○ 「旭」の漢字は、両校の現校名にも使用されている。 ○ 横浜旭陵高校の近傍の地域「都岡」から「岡」を付すことにより、地域とのつながりを想起させる。 ○ 新校は普通科であることから、学科を表す言葉は付さない。 	<p style="text-align: center;">① ②</p>

ア 《学校を通じた意見聴取結果 旭高校》

(ア) 【生徒】(意見聴取の方法：アンケート)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
横浜旭 (よこはまあさひ)	<ul style="list-style-type: none"> 旭は残し、横浜市にあることがわかりやすいため。 横浜市旭区だから。 旭陵も旭も「旭」の漢字が使われているので。
旭 (あさひ)	<ul style="list-style-type: none"> そのままでも、両校の高校も「旭」が入っているから。 旭区にあるから。 旭と旭陵に「旭」の文字があるから両方の文化を持てる。
下川井 (しもかわい)	<ul style="list-style-type: none"> ここが下川井だから。一気に新しくした方が、新鮮さがあっていいと思った。 旭区内に高校がたくさんあるからもっと絞って下川井にし、場所などをわかりやすくした。 下川井町にあるから。
旭陽 (きよくよう・こうよう・あさひ)	<ul style="list-style-type: none"> 「朝日のように明るく照らす未来」をイメージした。生徒一人ひとりが太陽のように輝き、力強く羽ばたいていける学校を目指す。 ポジティブな印象にするため。 「旭」と「陵」の意味を統合し、「陽＝太陽＝旭」に繋がる。 「朝日」と「太陽」は明るくパワーある雰囲気です旭に合う。
その他、校名検討に関する意見 なし	

(イ) 【教職員】(意見聴取の方法：アンケート)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
横浜旭 (よこはまあさひ)	旭と横浜旭陵を合わせると、この校名が最も適していると感じたから。また、50年の伝統を有する「旭」は継承していくべきだから。
横浜あさひ (よこはまあさひ)	旭区という地名であること、旭高校や横浜旭陵高校とも違う新しい学校感を出したいと思った。
横浜旭陽 (よこはまあさひ)	「あさひ」の音がいいと思うのでそのまま、「ひ」と読む字を付け加えた。旭陵の名残を残して似た響きで「きよくよう」とも読める。
横浜新旭 (よこはましんきよく)	本校と旭陵高校の共通する旭の字を生かす。常に前向きに新しい意識をもって進むというイメージを活かした。
横浜サンライズ (よこはまさんらいず)	旭、旭陵の両方に含まれる「あさひ」の意味を含み、新しい歩みを表すためカタカナ表記の校名を考えた。
その他、校名検討に関する意見 なし	

(ウ) 【学校運営協議会】(意見聴取の方法：アンケート)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
横浜旭 (よこはまあさひ)	両校に共通の「旭」に、横浜市内の高校であることから「横浜」を頭に付けた。
横浜旭星 (よこはまきょくせい)	旭の太陽のイメージに星のイメージを加えて、より一人一人が輝く高校であってほしいとの願いを込めた。
横浜旭優 (よこはまきょくゆう)	旭の漢字は残し、明るさや始まり、優の意味から優しく優れることを取り、旭区から明るく優れた生徒を育む。
その他、校名検討に関する意見 なし	

(エ) 【PTA】(意見聴取の方法：アンケート)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
横浜旭 (よこはまあさひ)	旭と横浜旭陵を繋げて、どちらも想起できる校名。
横浜旭岡 (よこはまあさひがおか)	横浜と旭と地名の都岡から。
横浜あさひ (よこはまあさひ)	旭と横浜旭陵のどちらにも入っている旭を平仮名にして、新しい学校名とした。
その他、校名検討に関する意見 なし	

(オ) 【同窓会】(意見聴取の方法：アンケート)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
横浜旭 (よこはまあさひ)	旭、横浜旭陵に共通した旭を使用し、神奈川県横浜市旭区に所在することを明確に伝える。
旭 (あさひ)	可能であれば今の校名を残したい。
その他、校名検討に関する意見 神奈川県立旭高等学校の名前を残したい気持ちもあるが、横浜旭陵側の気持ちも考えると、新校として1期生から始まるならば新しい名前ですスタートするのが良い。	

(カ) 【地域(自治会など)】(意見聴取の方法：アンケート)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
横浜旭 (よこはまあさひ)	横浜旭陵高校と旭高校の両校の漢字から抽出。二つの高校の名前が入っている高校名。
旭ヶ岡 (あさひがおか)	旭と都岡の岡を合わせた。
下川井 (しもかわい)	町の方々から愛される名前にしようと考えたため、町名を取った。
その他、校名検討に関する意見 なし	

イ 《学校訪問にて意見聴取した結果：旭高校》

生徒
<ul style="list-style-type: none">・「旭」を残したいことや、両校が旭区にあることから、「旭」や「横浜旭」が良い。・他に地名から「下川井」や、太陽の明るいイメージから「旭陽」の案も挙がった。・平仮名の「あさひ」より、漢字の「旭」の方が気に入っている。・旭高校の通称として「あさひ」に慣れ親しんでいる。
教職員
<ul style="list-style-type: none">・「横浜旭」「横浜あさひ」「横浜旭陽」「横浜新旭」「横浜サンライズ」が挙がった。・漢字の「旭」は伝統的、平仮名の「あさひ」は柔和なイメージがある。・地名を入れるなら「横浜」。漢字の「旭」を入れたい。・「横浜旭陵」の「横浜旭」に「陽」を加えた「横浜旭陽」は、新校のイメージが出る。
学校運営協議会
<ul style="list-style-type: none">・基本的に「旭」を残して欲しい。・「横浜」が付く高校は多く、パターンも同じなので、無理に付けなくてもよい。・旭を「きょく」と読むことに抵抗がある。「横浜旭」が落とし所。
P T A
<ul style="list-style-type: none">・漢字の「旭」が伝統を感じさせ、両校に共通して馴染みもある。・「横浜」と「旭」と横浜旭陵高校の地域名の都岡から「横浜旭岡」の案も挙がった。・「旭横浜」という並び方の校名も考えられる。
同窓会
<ul style="list-style-type: none">・現在の「旭」の意見も強い。・横浜旭陵高校にも配慮しながら、新しい校名でスタートしたい。・旭高校の通称は「あさひ」が一般的。「旭横浜」は語呂が悪い。・読み方は「きょく」ではなく「あさひ」が付く方が良い。
地域の方
<ul style="list-style-type: none">・「旭」の方が印象強く、地元は「旭高校」の名が浸透している。・旭高校の近辺は、川井(川井、上川井、下川井の3川井)と言われている。
学校管理職
<ul style="list-style-type: none">・第1候補は、市名の「横浜」と両校に使われている「旭」の字から「横浜旭」。・第2候補は、新しい感じを出すため平仮名表記の「横浜あさひ」。・第3候補は、「横浜旭」に、横浜旭陵の元都岡の「岡」を加えて「横浜旭岡」。

ウ 《学校を通じた意見聴取結果 横浜旭陵高校》

(ア) 【生徒】(意見聴取の方法: アンケート)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
横浜旭 (よこはまあさひ)	旭高校の名前も残しつつ、横浜旭陵高校の名前も残す名前。
夢幻学園 (むげんがくえん)	旭陵という過去にあった幻の学校が無限に語り継がれていくように、それと同時に夢と希望を新生徒に無限に与えられるように。
旭豊風 (あさひとよかぜ)	「旭」は旭高校と横浜旭陵高校から。そして高校生活で「豊」かな生活をして色んな経験を積み、これからの人生を「風」に乗る鳥のように羽ばたいてほしいから。
その他、校名検討に関する意見 なし	

(イ) 【教職員】(意見聴取の方法: アンケート)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
横浜旭 (よこはまあさひ)	横浜旭陵+旭を合体させるのが、一番分かりやすいと考えたから。
よこはま旭 (よこはまあさひ)	旭高校と旭陵高校に共通する「旭」と、旭陵が学校設定科目 Zoology で連携していた「よこはま動物園(ズーラシア)」から平仮名表記の「よこはま」が良いと思った。
横浜旭昇 (よこはまきょくしょう)	朝日が昇るように、勢いのある様子を表した。生徒が勢いを持って成長してほしいとの願いを込めた。
その他、校名検討に関する意見 なし	

(ウ) 【学校運営協議会】(意見聴取の方法: アンケート)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
横浜あさひ (よこはまあさひ)	旭高校と横浜旭陵の両校に共通の「あさひ(旭)」を用いた。
横浜旭丘 (よこはまあさひがおか)	旭高校と横浜旭陵の両校に共通の「旭」、旭陵の「陵」に丘の意味があることなどから。
その他、校名検討に関する意見 なし	

(エ) 【PTA】(意見聴取の方法：アンケート)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
あさひ旭陵 (あさひきょくりょう)	2つの学校を象徴する名前。
横浜旭 (よこはまあさひ)	・横浜旭陵高校の「横浜」と旭高校の「旭」からとった。 ・横浜旭陵高校においては、都岡高校・中沢高校の再編・統合時に新たな校名となったので、次世代にも残しておきたいと思っている。
旭陵 (きょくりょう)	旭高校の旭が入っているため、横浜を取り旭陵高校。
帝翔 (ていと)	帝にはカリスマ性や力強さを連想させ、翔には飛翔といった羽ばたくポジティブな印象を含む。「成功するために学び大空へ羽ばたいて行く」といった希望を秘めた名前だと考えた。
<p>その他、校名検討に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜旭陵高校という新しい校名になった際に、校章も制服等も一新された。都岡高校・中沢高校の生徒だった者としては、新校名に横浜旭陵の面影が残っていると嬉しく思う。 ・校舎がなくなる予定で、生徒も保護者も寂しいと思うので、せめて旭陵の名前だけは残して欲しい。 	

(オ) 【同窓会】(意見聴取の方法：アンケート)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
横浜旭 (よこはまあさひ)	横浜旭陵高校と旭高校の両校の漢字から抽出。二つの高校の名前が入っている高校名。
横浜旭岡 (よこはまあさひがおか)	旭高校と地名の都岡から。
その他、校名検討に関する意見 なし	

(カ) 【地域(自治会など)】(意見聴取の方法：アンケート)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
上白根稲荷 (かみしらねいなり)	上白根稲荷社は明和4年(1767)創建の旧白根村の鎮守社で、地域の歴史・文化の中心的存在。 校名にすることで、地域の古くからの信仰と結びつきアイデンティティを強調できる。
<p>その他、校名検討に関する意見</p> <p>旧校名である都岡高校、中沢高校、横浜旭陵高校の名前に引っ張られない方がいい。地域の歴史に踏み込むことが、その地域を愛せる。</p>	

エ 《学校訪問にて意見聴取した結果：横浜旭陵高校》

生徒
<ul style="list-style-type: none">・「横浜旭」がシンプルで覚えやすい。両校は「旭」の言葉を大事にしている。・「旭」のみの場合、寂しく思うが、旭陵の雰囲気が残るので、それでも良い。
教職員
<ul style="list-style-type: none">・「旭」と「旭陵」の両校の校名や、所在地の旭区から「旭」の漢字は残したい。・市名の「横浜」を付けて「横浜旭」の意見も良い。・連携先「よこはま動物園ズーラシア」の記載を踏まえ、平仮名表記の「よこはま旭」もあった。・「旭」の太陽が昇るイメージや、横浜旭陵高校の校章から「横浜旭昇」も良い。・「旭横浜」でも違和感はない。
P T A ・ 学校運営協議会
<ul style="list-style-type: none">・両校とも旭の字があるので「横浜旭」が一番良い。・所在地が旭区でもあるので、読み方よりも「旭」の漢字を残したい。
同窓会（管理職が代弁）
<ul style="list-style-type: none">・両校のイメージが残る「旭」が残っていれば良い。・「横浜」と「旭」と横浜旭陵高校の地域名の都岡から「横浜旭岡」の案も挙がった。
地域の方
<ul style="list-style-type: none">・「横浜旭」等「旭」の漢字が入った校名が良い。・富士山が見えるので「旭峰」や「旭岳」も良い。・「横浜旭峰」等、少し長いが支障はない。
学校管理職
<ul style="list-style-type: none">・「横浜旭」の意見が、定番になっている印象がある。・「横浜旭」でも良いが、他にも旭区内の県立高校がある点は、少し気になる。

横浜桜陽高校・永谷高校の校名候補

校名候補案	主な選定理由	視点
<p>戸塚南 (とつかみなみ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新校の所在地の区名である「戸塚」を冠する。 ○ 戸塚区の南部に位置するため「南」を付す。 ○ 両校の現校名を使用しないことにより、新校として出発するイメージを表す。 ○ 地名や場所も含めて、シンプルでわかりやすい。 ○ 新校は普通科であることから、学科を表す言葉は付さない。 	<p>① ③</p>
<p>戸塚南桜 (とつかなんおう)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新校の所在地の区名である「戸塚」を冠する。 ○ 戸塚区の南部に位置するため「南」を付す。 ○ 横浜桜陽高校にも使われ、戸塚区の花でもある「桜」を使用することにより、桜が美しく咲き誇るような学校のイメージを想起させる。 ○ 「横浜」ではなく「戸塚」を使用することにより、他校(横浜南陵)の響きと混同しないようにする。 ○ 新校は普通科であることから、学科を表す言葉は付さない。 	<p>① ② ③</p>
<p>横浜桜永 (よこはまおうえい)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新校の所在地の市名である「横浜」を冠する。 ○ 横浜桜陽高校の「桜」と永谷高校の「永」を使用することにより、それぞれのルーツを残すことができる。 ○ 横浜桜陽高校にも使われ、戸塚区の花でもある「桜」と永谷高校の「永」を使用することにより、桜が永く美しく咲き誇るような学校のイメージを想起させる。 ○ 新校は普通科であることから、学科を表す言葉は付さない。 	<p>① ②</p>

ア 《学校を通じた意見聴取結果 横浜桜陽高校》

(ア) 【生徒】(意見聴取の方法：生徒会役員と校長の座談会で聴き取り)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
桜花 (おうか)	書きやすく、読みやすいから。
南桜 (みなみざくら)	横浜から見て南にあるから。
桜浜 (おうはま)	横浜だから。
桜華 (おうか)	一人ひとりの個性が輝いて華やかな学校にしたいから。
山桜桃 (ゆすら)	名前が格好いいから。
その他、校名検討に関する意見 頭に横浜を付けることは問題ない。 本当は「横浜桜陽」のままが良い。	

(イ) 【教職員】(意見聴取の方法：アンケート)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
桜陽 (おうよう)	これまでの2校と今回の2校と合計4校の再編統合のため、地名を冠した校名は付けづらい点と、校舎は横浜桜陽高校を使用し、地元からは既に校名の認知は高いと考えるため。
横浜戸塚 (よこはまつか)	戸塚区の学校として、地域住民に応援されるような学校になってほしいため。
横浜未来 (よこはまみらい)	過去を振り返るよりも、今、そして未来に向かって歩みだしてほしいという願いを込めて。
横浜明桜 (よこはまめいおう)	桜の文字は学校の雰囲気や多数の桜があるところから残したいと考え、桜色のように明るく元気な生徒が育つ学校を目指すという意味。
その他、校名検討に関する意見 なし	

(ウ) 【学校運営協議会】(意見聴取の方法：アンケート)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
横浜桜永総合 (よこはまおうえいそうごう)	<ul style="list-style-type: none"> ・桜陽と永谷それぞれのこれまで歩んできた歴史と卒業生への敬意を払い「桜」と「永」の一文字ずつを残した。 ・これから新たな学校、新たな環境、新たな仲間と学ぶ生徒に対し、「桜の花のように大地にしっかりと根を張り、常に自分の気持ちに真っすぐで、多くの人から愛され、永久(とわ)に心豊かで美しい人生を過ごしてほしい」という思いを込めた。
横浜桜風総合 (よこはまおうふうそうごう)	<ul style="list-style-type: none"> ・桜陽の校舎を継続利用することから「桜」の一字を残し、そこに「風」(新たな学校を意味する)の文字を付けた。 ・これから新たな学校、新たな環境、新たな仲間と学ぶ生徒に対し、「桜風という新たに吹く風、新たに流れる空気に乗って桜の花びらのように天高く舞い上がれ」という思いを込めた。
その他、校名検討に関する意見 なし	

(エ) 【PTA】(意見聴取の方法：PTA役員よりアンケート)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
戸塚桜陽 (とつかおうよう)	横浜「桜陽」という校名が幅広い年齢層に周知されており、地域にも愛されている。
横浜桜葉 (よこはまさくらば)	桜をはじめ、緑豊かな場所であり、その輝く緑は様々な種類の木や植物の葉1枚1枚が合わさって形成されており、その様子が個性豊かな生徒たちの様であるため。
横浜緑桜 (よこはまりよくおう)	緑豊かに囲まれ、たくさんの桜の木が植えてあり、学校の入口である厳かな雰囲気のある門と桜の花がとても似合うため。
緑谷桜陽 (みどりやおうよう)	横浜「桜陽」という校名が定着し、親しみも持たれており、永谷の校名に使用されている「谷」を合わせた名。
その他、校名検討に関する意見 幅広い地域や年齢層に知られている校名なので、変更なしがよい。変更するなら「桜陽」の名は残していただきたい。	

(オ) 【同窓会】※組織が存在しない

(カ) 【地域(自治会など)】(意見聴取の方法：町内会長よりアンケート)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
特になし	

イ 《学校訪問にて意見聴取した結果：横浜桜陽高校》

生徒
<ul style="list-style-type: none">・「横浜桜陽」のままが良いとの意見が多い。・校門に桜もあり、他の校名ならば「桜」の字は残したい。・春の桜や、PTAの植えた花も多く、「桜華」でも良い。・場所の分かりやすさから「横浜戸塚」も良い。
教職員
<ul style="list-style-type: none">・「桜」の字を残す案や、新校として思い切って新しくする案が出た。・未来に向かって欲しいという意味で「横浜未来」も良い。・現在の校名を大きく変えないメリットも考えて「桜陽」が良い。・市立戸塚高校はあるが、戸塚区内の県立高校として「横浜戸塚」が良い。
学校運営協議会
<ul style="list-style-type: none">・「横浜桜陽」の名前は、信号やバス停の名称でも使われており、残して欲しい。・以前の汲沢高校から、横浜桜陽が漸く馴染んできた時期。・市立戸塚高校と区別しづらいことは困る。・横浜桜陽高校の「桜」と永谷高校の「永」から「横浜桜永総合」の案も挙がった。
PTA
<ul style="list-style-type: none">・現在の「横浜桜陽」のままが良い。難しければ「桜陽」を残して「戸塚桜陽」。・場所としては「戸塚」が一番しっくりくる。・地域の特色を生かした「横浜桜葉」「横浜緑桜」や、永谷も入れた「緑谷桜陽」も挙がった。・横浜桜陽高校は未だに元汲沢高校と認識されている。
学校管理職
<ul style="list-style-type: none">・市立戸塚高校はあるが、地域に根差した新しい高校として「横浜戸塚」が良い。・横浜市の西側にあることから「戸塚西」でも良い。「戸塚」を使いたい。・戸塚区の中で見れば、南とも言える。・フレキシブルスクールのイメージを払拭し、新しい形での出発としたい。

ウ 《学校を通じた意見聴取結果 永谷高校》

(ア) 【生徒】(意見聴取の方法：アンケート)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
横浜永陽 (よこはまえいよう)	永「続く、不変」と陽「明るさ活気」の組み合わせで、ずっと光を放ち続けるというイメージ。
横浜永桜 (よこはまえいおう)	永は「永続性」と桜は「美」ずっと美しく咲き誇る学校にしたいという想いを込めて。
その他、校名検討に関する意見 なし	

(イ) 【教職員】(意見聴取の方法：アンケート)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
横浜桜楠 (よこはまおうなん)	桜と永谷のシンボルツリー楠の木を合わせた。
戸塚桜楠の森 (とつかおうなんのもり)	戸塚にある桜と楠の木を中心に、樹木の豊かな生命を育む森のような学校を築く。
その他、校名検討に関する意見 なし	

(ウ) 【学校運営協議会】(意見聴取の方法：アンケート)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
永桜 (えいおう)	桜のイメージがある学校が永く続くように。
横浜永桜 (よこはまえいおう)	一文字ずつとってみた。永谷の方がイメージ強く残る感じ。
横浜永陽 (よこはまえいよう)	一文字ずつとってみた。昼間の長いこと。もっぱら正月をたたえる言葉として用いられる。
その他、校名検討に関する意見 なし	

(エ) 【PTA】(意見聴取の方法：アンケート)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
横浜凜明 (よこはまりんめい)	凜という感じの持つ、澄んで気高く気品があるイメージに加え、明るい学校であってほしいという願いを込めた。
横浜きずな (よこはまきずな)	桜陽も統合してできた学校、そしてまた永谷と統合。よって、つながりがいつまでも続き、きずなを築いていってほしいという思いでこの名前を考えた。
桜楠 (さくらな)	桜陽の桜と永谷高校の楠をシンボルに、これからも続いていってほしい思いを込めて。
その他、校名検討に関する意見 なし	

(オ) 【同窓会】 (意見聴取の方法：代表者からの聴き取り)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
横浜桜楠 (よこはまおうなん)	永谷のシンボルツリーの楠と桜陽の桜から。横浜桜陽高校に楠を植樹するので。
その他、校名検討に関する意見 なし	

(カ) 【地域(自治会など)】 (意見聴取の方法：代表者からの聴き取り)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
戸塚みなみ (とつかみなみ)	汲沢は、戸塚の南に位置しているから。
横浜南桜 (よこはまなんおう)	南に位置していることと桜陽の一文字。平戸永谷川の桜がイメージできると良いと思う。
その他、校名検討に関する意見 なし	

エ 《学校訪問にて意見聴取した結果：永谷高校》

生徒
<ul style="list-style-type: none">・「永陽」が良い。何事にも積極的に取り組むという意味を込めたい。・「戸塚」がついても良い。・「楠」も「永」も学校のシンボルとして違いはない。
教職員
<ul style="list-style-type: none">・横浜桜陽高校の桜と、永谷高校のシンボルツリーの楠を新校に移動することになるので、永谷を残す観点で「横浜桜楠」や「戸塚桜楠の森」を出した。
学校運営協議会（管理職が代弁）
<ul style="list-style-type: none">・「永桜」に戸塚を付けた「戸塚永桜」は良い。・永谷の「永」の字を使用。「谷」の字は落ちていくイメージがあり、使いづらい。・楠が、永谷高校のシンボルツリーとして広く認知されているわけではない。
P T A
<ul style="list-style-type: none">・横浜桜陽高校の桜と永谷高校の楠をシンボルにした「桜楠」(さくらな)が良い。・永谷高校の校歌にも「楠」が入っている。・横浜や戸塚が付くことに違和感がある。統合するので新たな校名の方が良い。
同窓会（管理職が代弁）
<ul style="list-style-type: none">・横浜桜陽高校の桜と永谷高校のシンボルツリーの楠から「横浜桜楠」が良い。
地域の方（管理職が代弁）
<ul style="list-style-type: none">・南に位置することと、桜陽の桜から「横浜南桜」。「戸塚南桜」でも良い。・新校の所在地が戸塚区の南であることから「戸塚みなみ」。・「横浜戸塚」は、市立戸塚高校と重なってしまう気がする。
学校管理職
<ul style="list-style-type: none">・「横浜」を付けるならば「横浜桜楠」が良い。・新校が戸塚区の南にある点で「戸塚南桜」でも良い。・「戸塚南」は、他校と混ざらず、馴染みやすい。

藤沢清流高校・深沢高校の校名候補

校名候補案	主な選定理由	視点
<p>藤沢東 (ふじさわひがし)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新校の所在地の市名である「藤沢」を冠する。 ○ 藤沢市の東部に位置するため「東」を付す。 ○ 市内西部に位置する「藤沢西」高校の例もある。 ○ 両校の現校名を使用しないことにより、新校として出発するイメージを表す。 ○ 地名や場所も含めて、シンプルでわかりやすい。 ○ 新校は普通科であることから、学科を表す言葉は付さない。 	<p>① ③</p>
<p>藤沢深清 (ふじさわしんせい)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新校の所在地の市名である「藤沢」を冠する。 ○ 深沢高校の「深」と藤沢清流高校の「清」を使用することにより、それぞれのルーツを残すことができる。 ○ 「深」を先に置くことにより、落ち着いた静かな重厚感があるイメージを想起させる。 ○ 「深い川は静かに流れる」ということわざから、思慮深く内面が豊かで、外見や言動が穏やかであり、変化の激しい今の時代に落ち着いて行動できる人物のイメージにつながる。 ○ 新校は普通科であることから、学科を表す言葉は付さない。 	<p>① ②</p>
<p>藤沢清深 (ふじさわせいしん)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新校の所在地の市名である「藤沢」を冠する。 ○ 藤沢清流高校の「清」と深沢高校の「深」を使用することにより、それぞれのルーツを残すことができる。 ○ 「清」を先に置くことにより、明るく清らかな、開かれたイメージを想起させる。 ○ 新校は普通科であることから、学科を表す言葉は付さない。 	<p>① ②</p>

ア 《学校を通じた意見聴取結果 藤沢清流高校》

(ア) 【生徒】(意見聴取の方法：フォームにて募集)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
深清 (しんせい)	深い心と清い心を持つ生徒が集まる学校になるために深沢の「深」と清流の「清」をとった校名である。
藤沢深清 (ふじさわみしん)	統合した学校名を引き継ぎたいと思い「藤沢」「大清水」「清流」「深沢」から取り出した。
深沢清風 (ふかさわせいふう)	藤沢に吹く新しい風となれるように願いを込めている。
湘南藤沢 (しょうなんふじさわ)	湘南地区の藤沢にあることから湘南藤沢とした。
その他、校名検討に関する意見 なし	

(イ) 【教職員】(意見聴取の方法：直接募集)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
大清水 (おおしみず)	隣接する小学校、中学校と一体感が出る。地域との関係性においてメリットがある。
シン・大清水 (しんおおしみず)	「シン」の言葉には、「新」以外にも深沢の「深」をあてることもでき、「真」や「信」「心」「伸」「進」など学校や地域にプラスのイメージになる漢字をたくさんあてる点もメリットである。
藤沢中央 (ふじさわちゅうおう)	藤沢市の高校のほぼ中央に位置する。各所の中央(心)の人材を育成。
藤沢清実 (ふじさわせいじつ)	藤沢清を継承し、リーダーシップ教育で実行力のある人材を育成。
藤沢せせらぎ (ふじさわせせらぎ)	藤沢清流のイメージを継承しつつ、今までにない平仮名標記で新校のインパクトをつけたい。
藤沢清進 (ふじさわせいしん)	藤沢清を継承し、推進力のある人材を育成。
藤沢 (ふじさわ)	地名こそ最もニーズが高い。藤沢を代表する学校のイメージ。
湘南清流 (しょうなんせいらゆう)	地名と馴染みの名称。
大清水清流 (おおしみずせいらゆう)	「大清水」は隣接する小中学校と同名であり、同じ地域として一体感がある。また川沿いに位置するので「清流」は残す。
湘北 (しょうほく)	近隣の湘南高校より北に位置している。
その他、校名検討に関する意見 藤沢もしくは湘南は必ず入れてほしい。	

(ウ) 【学校運営協議会】（意見聴取の方法：学校運営協議会で募集）

校名(よみがな)	由来・理由・意見
清流 (せいりゅう)	地域を表す言葉として馴染みがある。深沢と統合するので藤沢をとる。
藤沢水明 (すいめい)	<ul style="list-style-type: none"> ・「藤沢清流」は境川、「深沢」の地名は昔の湖に由来する。水を共通点に両者が一体となるイメージを表現した。 ・「水明」には、澄んだ水が日や月の光によって美しく輝くという意味がある。生徒が輝くイメージを重ねた。 ・所在地の「藤沢」を付けたが、深沢のことを考えると「湘南水明」とすることも考えられる。
藤沢水陽 (ふじさわすいよう)	「陽」は藤沢清流のサンクンガーデンに陽が降り注ぐ様子から着想した。地域から温かく見守られながら、生徒が成長するイメージを重ねた。「湘南水陽」も考えられる。
藤沢清澄 (ふじさわせいちょう)	「清澄」には清らかで澄みきっているという意味がある。生徒の心の美しさを重ねた。「湘南清澄」も考えられる。
その他、校名検討に関する意見 なし	

(エ) 【PTA】（意見聴取の方法：フォームにて募集）

校名(よみがな)	由来・理由・意見
藤沢清湘 (ふじさわせいしょう)	清流の面影を残しながら湘南をアピール。
藤沢清流 (ふじさわせいりゅう)	変える必要なし。
湘南清流 (しょうなんせいりゅう)	今の名前を残す形。
藤沢大清水 (ふじさわおおしみず)	隣接する小学校と中学校の校名を考えると、大清水に戻るのが良い。
清流深沢 (せいりゅうふかさわ)	藤沢の「沢」と深沢の「深」を、清流に続ける形で考えた。
その他、校名検討に関する意見 清流藤沢高校 1 件、清流高校 2 件あり。	

(オ) 【同窓会】（意見聴取の方法：代表より直接聴取）

校名(よみがな)	由来・理由・意見
藤沢蒼流 (ふじさわそうりゅう)	特になし。
深流 (しんりゅう)	深沢の「深」と清流の「流」をとって。
藤沢東 (ふじさわあずま)	藤沢市の東にある学校であるため。
その他、校名検討に関する意見 なし	

(カ) 【地域（自治会など）】（意見聴取の方法：地域の団体を通じて募集）

校名(よみがな)	由来・理由・意見
藤沢クラール (ふじさわくらーる)	クラールはドイツ語で「澄んだ」「透明な」「明確な」等ある。清流高校の生徒の皆さんは、挨拶ができマナーよくこの言葉に合っていると感じた。また、近隣でカタカナの校名はなく、生徒も新鮮で誇りを持ってもらえるのではないかと考えた。
藤沢光 (ふじさわひかり)	「光」という力強さを入れてほしい。
藤沢南 (ふじさわみなみ)	地域の高校の位置より、湘南を除けば南に位置している。
光流 (こうりゅう)	川がきらきら光っているイメージ。
光清 (こうせい)	川がきらきら光っているイメージ。
藤沢大清水 (ふじさわおおしみず)	大清水小学校と大清水中学校と3校での取組みが活発である中、高校名にも大清水が入ると、より一体感があり地域の学校としては嬉しい。
大清流 (おおしみず)	大清水と清流の合同であると同時に、深沢高校と統合することで益々大きい流れとなる。
その他、校名検討に関する意見 大清水に戻してはどうか。	

イ 《学校訪問にて意見聴取した結果：藤沢清流高校》

生徒
<ul style="list-style-type: none">・「湘南」のブランドを活用した魅力向上と、「清流」は伝統継承の意味で、「湘南清流」が良い。・清流の「清」と深沢の「深」から「藤沢深清」が良い。読みは「みしん」より「しんせい」の方が良い。・藤沢清流寄りでもなく、両方の意味を込めている点で「深沢清風」が良い。・全国的に有名な「湘南」を入れたい。／地域性がより強い「藤沢」を入れたい。
教職員
<ul style="list-style-type: none">・隣接する小中学校に合わせて「大清水」に戻したい。「シン・大清水」でも良い。「シン・」は漢字でも良い。・「藤沢大清水」でも良い。「湘南」は海を連想させるので「藤沢」の方が良い。
学校運営協議会・地域
<ul style="list-style-type: none">・地域としては「大清水」や「清流」に親しみを感じる。・「清流」は浸透し、親しみがある。・小中学校に合わせて「大清水」に戻すという意見も多い。・「湘南」は印象が良いが、湘南高校と混同される可能性もあり止めた方が良い。
P T A
<ul style="list-style-type: none">・藤沢清流高校の知名度が浸透し、馴染んできたので「清流」を残したい。・「清流」が残るならば、「湘南清流」でも良い。
同窓会（管理職が代弁）
<ul style="list-style-type: none">・深沢と清流から「深流」。「藤沢深流」はイメージとして結びつきづらい。・「清流藤沢」は違和感ないが、深沢の要素は見えてこない。・「湘南清流」は良い。ここは湘南地域であり、一定のブランド力になる。
学校管理職
<ul style="list-style-type: none">・地域から「藤沢南」が良い。「藤沢東」もイメージできる。・「大清水」に戻すとの意見もあるが、深沢の要素が入らず良いのかと感じる。

ウ 《学校を通じた意見聴取結果 深沢高校》

(ア) 【生徒】(意見聴取の方法：アンケート)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
藤沢深流 (ふじさわしんりゅう)	<ul style="list-style-type: none"> ・清流と深沢の文字を合わせて作った。校舎は清流となり深沢が無くなってしまうので、高校名に取り入れることで新しい形で母校が残るため、この名前がいいと思う。 ・「深流」を取った理由は、自分達の中に一生に一度の高校生活がいつまでも深く心に流れればよいと思ったから。 ・また学校名の藤沢が残ることで学校所在地が分かりやすいと感じた。 ・川などが近くにあるので流れるという意味を込めた。
深流 (しんりゅう)	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらの名前も生かせるように合体させた。深沢の「ふか」ではなく「しん」と読むことで、人々の親睦を深められるようにという思いを込めた。 ・また流れるというのは、時代が進んでも、自分の意思が流れないようにという願いを込めた。 ・深沢と清流の頭文字だから。深く清らかな流れで綺麗。
藤沢清風 (ふじさわせいふう)	清流高校の「清」の字と深沢高校の校歌にある「気風」を合わせた。藤沢清流高校の平野に清らかな風が流れそうな雰囲気があるから。
本町境 (ほんまちさかい)	近くに藤沢本町駅があるため。 境川沿いにあるため。
清沢 (きよさわ)	清流高校の「清」と深沢高校の「沢」を組み合わせた。
沢流 (さわりゅう)	藤沢と深沢の「沢」と清流の「流」を入れた。
深栄 (しんえい)	3学年で絆を深めながら、栄えていって欲しいから。 深沢高校の名残を残したいから。
星辰 (せいしん)	<ul style="list-style-type: none"> ・星辰とは星々を意味し、夜空に輝く無数の星のように、生徒一人ひとりが個性豊かに輝き、壮大な未来を築くという意味を込めた。 ・また清流高校の「清」と深沢高校の「深」を合わせると清深(せいしん)と読めることから、読み方はそのまま、敢えて全く別の漢字を使い、新しく始まるということを強調したかったから。
その他、校名検討に関する意見 なし	

(イ) 【教職員】(意見聴取の方法：アンケート)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
青鷺 (あおさぎ)	清流高校のある大鋸と深沢高校のある川名の両方の地域で見られる(生息している)生物だから。二つの地域を行き来する、つなぐという意味を込めた。
海新 (かいしん)	海が見える学校へ新しく移ることと、気持ちを新しく「かいしん」という気持ちを込めた。
湘北 (しょうほく)	<p>モデルはもちろん某人気漫画からだが、至って真面目に考えた結論であり、根拠として以下の理由を挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「藤沢清流」には藤沢の地名が入っており、深沢は鎌倉の高校。2校が統合するので「藤沢」の地名を新校には絶対に入れて欲しくないというのが理由の1つ目。深沢の感情として、それでは完全に深沢は単なる完校という印象を与えかねない。 ・場所的に湘南海岸や湘南高校より北部にあるという地理的要因と、湘南ブランドを前面に出した校名はイメージ戦略として効果があると考え。また、「湘南」の地名を表現として使うのであれば、藤沢も鎌倉も両方網羅しているので、統合という観点からも相応しいと考える。 ・現在の藤沢清流高校は部活動が非常に活発な学校、というイメージを売り出している。もちろんイメージとして漫画から借用した形にはなるが、その「継続的に売り出したいイメージ」と一致していると考え。現在野球やサッカーなどで名を挙げているが、新校の校名に便乗した形で県内のバスケット強豪校を目指しても話題作りになるかもしれない。 ・また、藤沢本町駅を挟み、湘南高校の北に位置することから、湘南の地名が親しまれているので、親しみやすいと思われる。
深清 (しんせい)	深沢と清流。それぞれにとってもよい意味を持っている。
清深 (せいしん)	清流と深沢。それぞれにとってもよい意味を持っている。
藤沢 (ふじさわ)	藤沢高校の名称は大清水高校との再編・統合で消えたが、藤沢市の中心街にも近く藤沢をイメージできる。
藤沢東 (ふじさわひがし)	藤沢市の東部に位置するため。また、藤沢西高校が安定的に人気なので、対として。
藤沢深清 (ふじさわしんせい)	<ul style="list-style-type: none"> ・藤沢清流高校は、平成22年に藤沢高校と大清水高校が統合して開校した。伝統を引き継ぐためにも「藤沢」と「清」の文字は残すべきだと思う。そこに深沢高校がさらに統合されるため、「深」の文字を合わせた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「深」と「清」の文字をただ合わせただけでなく、「深清」には由来がある。藤沢清流高校の前を流れる「境川」と、深沢高校の前を流れる「柏尾川」が合流し、より大きく深い川となって、海に流れ込んでいる。 ・「深い川は静かに流れる」という諺があるが、内容のある充実した人は、騒がずに落ち着いて行動するという意味。つまり思慮深く内面が豊かな人は、外見や言動が穏やかであるということになる。両校が取り組んできたリーダーシップ教育の人物像として、変化の激しい今の時代でも大切なことを見失わず、落ち着いて行動できる人物がイメージに適合する。(静かと清らかなの意味は近い) ・藤沢清流と深沢の統合を、2校の傍を流れる川の合流に例え、さらに大清水の文字と合わさることで両校がめざすリーダーシップ教育の人物像を彷彿とさせる「藤沢深清」の名前をご検討していただきたい。
その他、校名検討に関する意見 なし	

(ウ) 【学校運営協議会】(意見聴取の方法：資料の事前配付、委員からの聞き取り)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
特になし	
その他、校名検討に関する意見 なし	

(エ) 【PTA】(意見聴取の方法：資料の事前配付、PTA 運営委員会での聞き取り)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
藤沢大河 (ふじさわたいが)	藤沢高校と大清水高校が統合し藤沢清流になり、さらに深沢高校が合わさり、「さんずい」の水が集まって大きな流れになる。これまでと今後の歴史を表した。
広流 (こうりゅう)	深沢高校の所在する「手広」と「清流」を組み合わせた。
清隆 (せいらゅう)	大清水、藤沢清流の流れを汲み、今後も興隆するように願いを込めた。
青龍 (せいらゅう)	清流の読み方を残した。
深流 (しんりゅう)	深沢の「深」と藤沢清流の「流」を組み合わせた。
清沢 (きよさわ)	藤沢清流の「清」と深沢の「沢」とを組み合わせた。
清深 (せいしん)	藤沢清流の「清」と深沢の「深」とを組み合わせた。
深藤 (ふかふじ)	深沢の「深」と藤沢清流の「藤」を組み合わせた。

藤深 (とうしん)	藤沢清流の「藤」と深沢の「深」とを組み合わせた。
藤深清 (とうしんせい)	藤沢清流の「藤」「清」と深沢の「深」を組み合わせた。
湘南白旗 (しょうなんしらはた)	湘南の由緒ある白旗神社(源義経を祭る)の前を通学路とする高校。広く親しまれる地名を校名にする。
その他、校名検討に関する意見 なし	

(オ) 【同窓会】 (意見聴取の方法：役員会で協議、代表者からの聞き取り)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
湘南創清 (しょうなんそうせい)	想像力豊かで未来志向、そして清らかな精神を持った人材を輩出したいという想いを込めた。
藤見 (ふじみ)	<ul style="list-style-type: none"> ・「藤」は藤沢高校の「藤」。 ・「見」は深沢尾「沢(水の流れを眺める)」+大清水の「清らかな水を見る」。 ・「ふじみ」は親しみやすく、平仮名表記も柔らかい。 ・「藤を望み、未来を見つめる」という前向きな想いを込めて。
藤沢清深 (ふじさわせいしん)	「藤沢」「大清水」「深沢」3校の名前を合わせた校名。
その他、校名検討に関する意見 なし	

(カ) 【地域(自治会など)】 (意見聴取の方法：学校運営協議会で代表者から聞き取り)

校名(よみがな)	由来・理由・意見
特になし	
その他、校名検討に関する意見 なし	

エ 《学校訪問にて意見聴取した結果：深沢高校》

生徒
<ul style="list-style-type: none">・深沢と清流から「深流」が良いという意見が多い。・藤沢清流高校の清らかな風が流れそうな雰囲気から「藤沢清風」も良い。・「藤沢東」「藤沢南」は分かりやすいが、両校の文化や名残を大事にしたい。・「本町境」は、場所がイメージしやすく良い。
教職員
<ul style="list-style-type: none">・深沢の名前を残したいから、「深」を使ってほしい。・地名が分かりやすい案や、地域の様子を表す「あおさぎ」が出ている。・清流と深沢の組合せとしては、「清深」か「深清」のどちらかが良い。・深沢高校の生徒や保護者のことを考えると、「藤沢」にしてほしくない。ただ強い拘りを持つ人が多いわけではない。・「藤沢」ではなく「湘南」にすれば、深沢高校のある鎌倉も含まれる。
P T A
<ul style="list-style-type: none">・藤沢清流(旧藤沢・旧大清水も含む)と深沢の両校が水に関わる校名で、それが統合して、今後の発展の意味を込めて「藤沢大河」が良い。
同窓会
<ul style="list-style-type: none">・生徒の創造力と清らかな心を育む「湘南創清」。・藤沢清流(旧藤沢・旧大清水)と深沢の校名を合わせた「藤沢清深」。・「清深」「深清」の順番に拘りはない。深沢の思い出が残れば良い。・「湘南」は、鎌倉と藤沢を跨ぐ領域での再編・統合の意味では良い。・藤沢清流高校の場所として「湘北」は違和感がある。・「藤沢南」「藤沢東」という深沢や清流を含まない校名でも問題ない。
学校管理職
<ul style="list-style-type: none">・「藤沢」が良い。藤沢清流高校の場所は、昔ながらの藤沢の場所。・場所が分かる校名が良い。「藤沢東」「藤沢南」でもあり。・藤沢を代表する学校になってほしいとの意味も込めて。・深沢の名前も出したいが、新校の位置が離れていて難しい。・「湘南」は湘南高校のイメージが強い。

4 協議経過

開催日		協議内容
令和7年 10月31日	第32回	<ul style="list-style-type: none"> ・校名選定の対象校等について ・校名選定の考え方について ・学校訪問による関係者からの意見聴取等 (旭高校、横浜旭陵高校)
11月14日	第33回	学校訪問による関係者からの意見聴取等 (藤沢清流高校、深沢高校)
11月17日	第34回	学校訪問による関係者からの意見聴取等 (横浜桜陽高校、永谷高校)
12月17日	第35回	<ul style="list-style-type: none"> ・校名選定の進め方について ・対象校の校名候補について
12月24日	第36回	県立高校校名検討懇話会(Ⅲ期) 第三次報告書について

県立高校校名検討懇話会の設置及び運営に関する要綱

(設置目的)

第1条 県立高校改革に伴う再編・統合等の対象となる高校の校名に関する有識者等の意見を聴取し、校名検討に反映させるため、県立高校校名検討懇話会（以下「懇話会」という。）を設置する。

(意見を求める事項)

第2条 懇話会は、次の事項について専門的見地等に基づき検討し、その結果を教育長に報告する。

- (1) 県立高校改革に伴う再編・統合等の対象となる高校の校名に関すること。
- (2) その他校名に関し教育長が必要と認める事項。

(設置期間)

第3条 懇話会の設置期間は、令和9年3月31日までとする。

(構成員)

第4条 懇話会は、教育行政や学校教育に関する学識経験を有する者等や一般県民（公募構成員を含む）から選定した者5名をもって構成する。

2 懇話会の構成員（以下「構成員」という。）の選任期間は2年間とする。ただし、最初の期間は、懇話会設置の日から平成30年3月31日までとする。

(会長)

第5条 懇話会に会長1人を置く。

- 2 会長は、構成員の互選により定める。
- 3 会長は、懇話会における意見を取りまとめる。
- 4 会長が不在のときは、あらかじめ会長が指名する者が代理する。

(会議の開催)

第6条 懇話会は、会長が必要に応じて開催する。

2 会長は、必要があると認めるときは、懇話会に構成員以外の者を出席させることができる。

(庶務)

第7条 懇話会の庶務は、教育局総務室が行う。

(雑則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、懇話会の運営等に関し、必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、平成28年3月18日から施行する。

附 則

この要綱は、令和2年3月31日から施行する。

附 則

この要綱は、令和5年3月28日から施行する。

附 則

この要綱は、令和7年3月24日から施行する。

令和7年度 懇話会構成員(50音順)

	氏 名	役 職
①	東 恵子	県民構成員
②	内田 裕美	神奈川県立高等学校 PTA 連合会 会長
③	大野 光雄	ニコ株式会社 代表取締役
④	北川 晃【会長】	横浜国立大学教育学部 教授
⑤	小島 由美【会長代理】	神奈川県立横浜平沼高等学校 校長